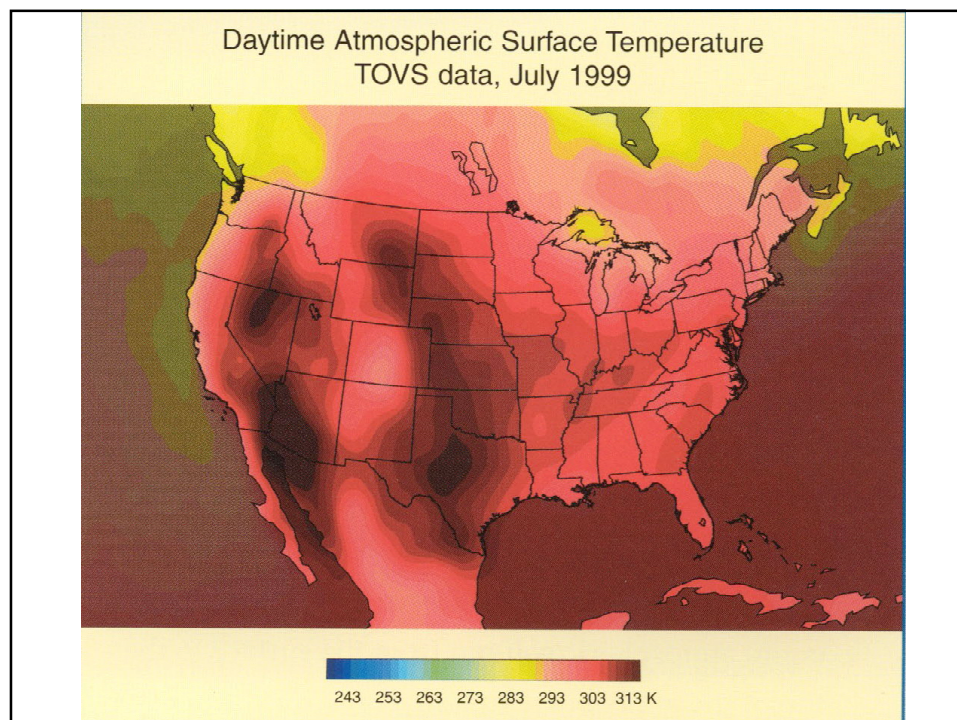
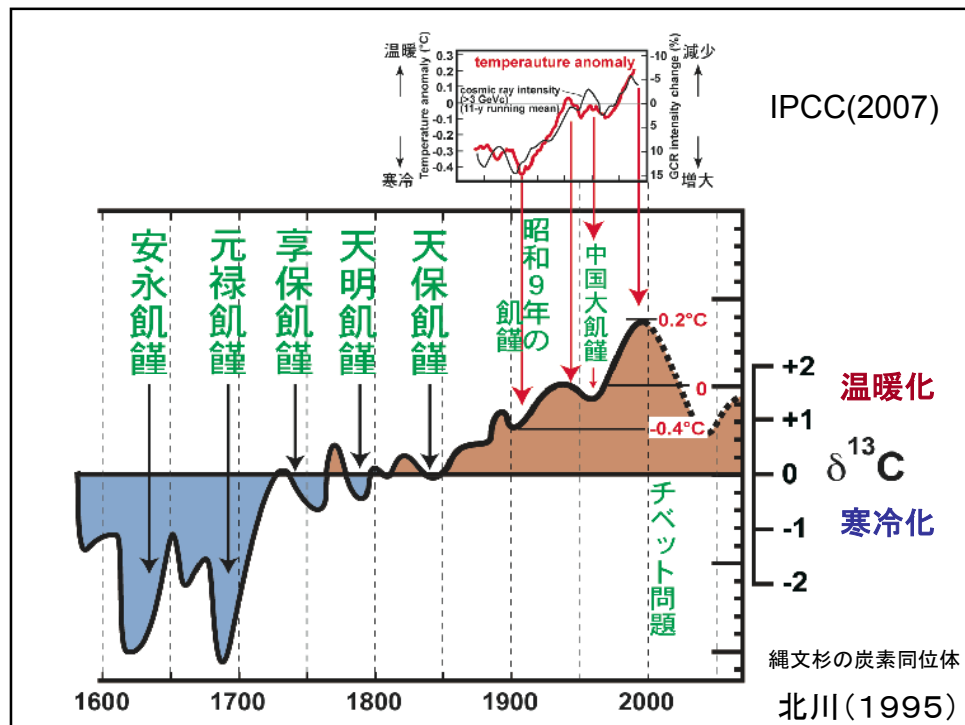
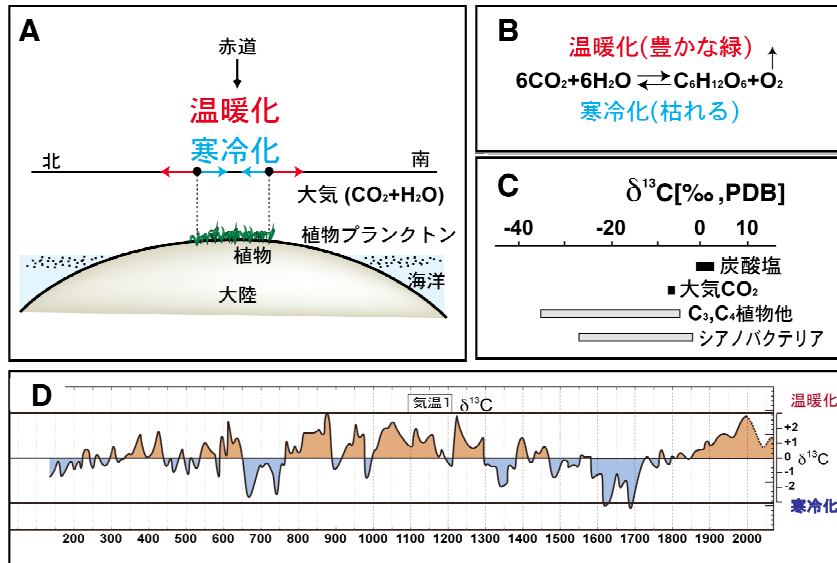


古気候温度計の問題

- 1 地域的か全球的か？(IPCCの取り扱い)
- 2 年輪幅、花粉学、酸素同位体(地域的)
- 3 激しく攪拌され均質な**大気の組成を反映する同位体を使う($\delta^{13}\text{C}$)**→最も優れた地球平均気温の指標
- 4 宇宙線照射量(地球磁場+太陽風+銀河宇宙線)の指標($\Delta^{14}\text{C}$)を使う(大気層に入射した宇宙線量の指標)

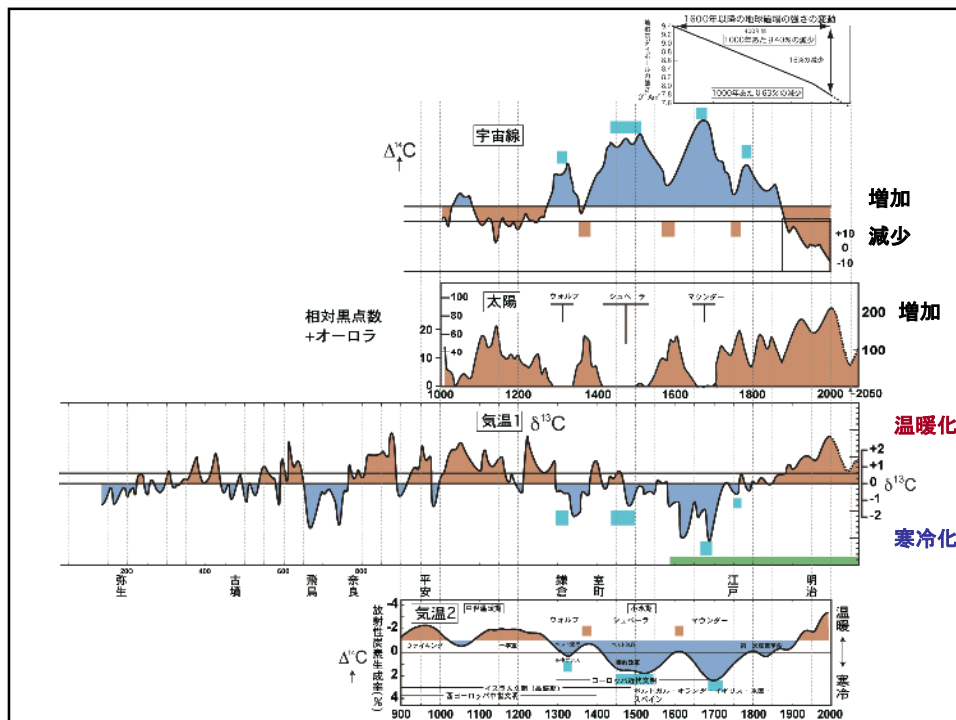


全球平均気温の指標(年輪の安定同位体を使い)



検証

- 1 過去140年の地球平均気温(温度計による)、日本列島の飢饉(冷害)の時期とデータを比較→優秀な古気温温度計として検証
- 2 温度目盛りを入れた→**過去50年は異常な温暖化の時代ではない**
- 3 温度の上昇速度は異常ではない→**過去1300年間に10回以上あった**



要点

- 1 宇宙線量、太陽活動、炭素同位体 ($\delta^{13}\text{C}$) の相関関係: **雲が気候を決めている** → **Svensmark説は正しい**
- 2 過去50年だけ急激な温度変化(人為起源CO₂による)したのではなく、この程度の変化は**過去2000年間で10回以上**起きている。もっと急激な変化がしばしば起きている。→ **IPCCは間違い**
- 3 過去50年間の変化は宇宙線照射量の減少と太陽活動の活発化の結果であり、500年周期の温暖化時期に対応→ **現代は中世の温暖期に対応** → **IPCCは間違い**
- 4 過去2000年間、気温変化は±1℃を上下(緩衝機構が機能)
- 5 過去50年の温暖化は**CO₂ではなく銀河宇宙線起源の雲の減少(0.2%)でも説明できる**
- 6 太陽活動の周期的変動(11、55、100-110年) → 21世紀の気候**予測が可能**

◆ 温暖化なのか寒冷化なのか?

人類は大気中に毎年約1ppmのCO₂を排出しているが、これは地球の温度を約0.004℃上昇させる値にすぎない。果たしてIPCCが予測するような急激な上向きの放物線を描くのか?

21世紀の地球気候予測

